

研究ノート

看護学部学生における導入教育の評価

—A大学における調査結果の検討—

Evaluation of the Introductory Education in Nursing Students

—Examination of the Results in A University—

長谷部 ゆかり^{1)*}, 田中 祐子¹⁾, 井上 美代江¹⁾, 田原 育恵¹⁾,
Yukari Hasebe, Yuko Tanaka, Miyoe Inoue, Ikue Tahara,

大籠 広恵¹⁾, 間 文彦¹⁾, 流郷 千幸¹⁾
Hiroyo Ohgomori, Fumihiko Hazama, Chiyuki Ryugo

キーワード 看護学部学生, 導入教育, 日常生活スキル

Key words nursing students, introductory education, life skills

抄録

背景 近年, 少子化の影響を受け大学への進学希望者と入学定員数がほぼ同数となる時代が到来した。このような状況の中, 大学生の学習意欲や学力の低下が指摘されており, 学習意欲の向上および適切な学習スキルを身につけるために導入教育を取り入れている大学が多い。大学生に対する導入教育の必要性が認識され実施されているが, 具体的な導入教育プログラムの基準や評価方式が未だ定まっていない現状があり, 共通教材の必要性も指摘されている。

目的 本稿は看護学部学生を対象に, コミュニケーション能力の向上や日常生活スキルの習得を目指した導入教育の効果を調査によって検討することを目的とした。

方法 対象は看護学部1年生全員(71名)である。導入教育の効果は, 「親和性」「リーダーシップ」「計画性」「感受性」「情報要約力」「自尊心」「前向きな思考」「対人マナー」の8因子からなる日常生活スキル尺度(大学生版)と自由記載式の感想用紙を使用し評価した。倫理的配慮として, 対象には研究への参加を拒否しても不利益を被ることは一切ないこと, 研究への参加は自由意思によって決定してよいことを伝えた。

結果 日常生活スキル尺度(大学生版)は, 導入教育の開始前と終了後で全ての因子において有意差が認められなかった。しかし, 導入教育の終了後に調査した学生の感想を共通内容ごとに分類し研究者間で検討した結果, 『コミュニケーションの成立度』『学習スキル向上』『カリキュラム上の課題』の3つの大きな項目にわけられた。また, 「リーダーシップ」の得点が低い傾向にあることが明らかとなり, 今後の導入教育に加え授業や臨地実習の中でリーダーシップ能力の向上を目指した教育や指導を取り入れることが必要とされた。

結論 今回の導入教育では有意差が認められなかった。しかし, 学生の感想にはコミュニケーションの充実や学習への積極的な姿勢についての記載がみられた。また, リーダーシップ能力の向上を目指す教育が必要とされた。

Abstract

Objective The purpose of this research is to investigate the effects of the introductory education on improvement in communications skills, and acquisition of life skills for the nursing students.

Methods Subjects were 71 first-year nursing students. The introductory education was evaluated by using an eight-point life skills scale (compatibility, leadership, planning ability, sensitivity, ability to grasp information, self-esteem, proactive thinking, and manners (and a written comment of their candid impressions).

Results/Discussion The differences in life skills categories between before and after introductory educational program are not significant. However, nursing students pointed out the improvement in communications skills, and tackling study positively after introductory education.

Conclusions In addition to introductory education, it is necessary to take in the education and instruction which aimed at improvement in leadership capability in a lesson or training based on this research.

I. 緒言

近年, 少子化の影響を受け大学への進学希望者と入学定員数がほぼ同数となる時代が到来した

(玉利, 2011)。このような状況の中, 大学生の学習意欲や学力低下が指摘されており, 学習意欲の向上を目指した教育方法の検討や, 適切な学習スキルや日常生活スキルを身につけるために導入教

¹⁾聖泉大学 看護学部 School of Nursing, Seisen University

*E-mail: hasebe-y@seisen.ac.jp

育を取り入れている大学が多い。導入教育については、1991年以降から実施校が増加し始め、さらに1999年を境に急増している（山田ら、2002; 山田、2001）。このように多くの大学で、導入教育の必要性が認識され実施されているが、具体的な導入教育プログラムに関する定義ならびに評価方法は未だ定まっていない現状がある（相良ら、2004）。

導入教育プログラムは大学で独自に検討されており、論文の書き方、文献検索、ディスカッションが多い（山田、2001）。また、石井ら（2011）は看護学部学生に対してマーケティングや災害医療など広範な内容で講演会を実施したところ、看護に関する講演内容で「有意義であった」と回答した学生が多数であったと述べている。導入教育の方法については、山田ら（2002）は少人数制指導や個別指導が有効であると述べているが、学生数によっては少人数制指導が困難であり講義形式を導入せざるを得ない状況があること、担当教員の間でプログラムの基準や評価方式などが大きく異なることから共通教材の必要性を指摘している。このように導入教育に関する調査報告はいくつかあるが、看護大学における導入教育のプログラムや効果を検討した報告は少ない。

そこで本研究は、看護学部1年生を対象に実施した導入教育の効果を調査によって検討することを目的とした。導入教育の目的は、①教員および友人とのコミュニケーションを図る、②大学生活・大学教育のあり方を理解し基本的な学習態度を身につける、である。

本研究の結果を踏まえて、今後の学生への教育および学習指導に関する取り組みを提案したいと考える。

Ⅱ. 方 法

1. 導入教育

1) 実施時期

平成23年4月～7月までの毎週月曜日3限目(90分間)に大学校内で計14回実施した。

2) 教育スタイル

学生グループと教員グループの組み合わせが毎週替わる方法を用いた導入教育（ローテーション式）と、学生グループと教員グループを固定して行う方法を用いた導入教育（固定式）を取り入れ

た。学生は学籍番号順に10人もしくは11人を1グループとし、教員は領域ごとに3～4人を1グループとして各々7グループを編成した。

3) プログラム

(1) オリエンテーション

i) 教員へのオリエンテーション

全教員に導入教育の目的およびプログラムについて説明した。具体的な導入教育プログラムは導入教育の開始前と導入教育の中期に話し合いを持ち内容の確認を行った。

ii) 学生へのオリエンテーション

導入教育の第1回目に全員を対象に、導入教育の目的と方法について教員が説明した。第9回目は後半の第10回目～14回目までの目的とプログラムについて説明した。

(2) プログラム内容

第1回目は全員を対象とした導入教育とし、「導入教育とは」「大学生のスタディ・スキルズ」「大学におけるレポート作成の方法」について教員が説明した。第2回目～第8回目までは目的①を達成するために、ローテーション式としプログラムは各教員グループにまかせた。第10回目～第14回目までは目的①と②を達成するためにグループ学習を用いた固定式としテーマは各グループで自由に設定した。

i) 前半（第2回目～8回目）におけるローテーション式の内容

「自己紹介」「自分のお気に入りの物についてのプレゼンテーション」「大学生活についてのディスカッション」「レクリエーション」などを実施した。

ii) 後半（第10回目～14回目）における固定式の内容

各グループで決めたテーマについて、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを実施した。テーマは、「認定看護師・専門看護師の役割を考える」「救命救急センターで働く経験をもつ教員へのインタビューを通じて救急看護を考える」「食生活を中心に地域住民へのインタビューを通じて住民の健康を考える」「看護理論家の書物を読み看護について考える」「格言集を読み感じたことや考えについてまとめる」「応急処置方法を調べまとめる」「自分達が住む地域の特性を調べまとめる」であった（表1）。

表 1. 導入教育の方法とプログラム

回数	目的	実施方法	グループ別時の実施方法	実施内容
第1回目	目的②：大学生生活・大学教育のあり方を理解し，基本的な学習態度を身につける	全員対象		<ul style="list-style-type: none"> 導入教育とは 大学生のスタディ・スキルズ レポート作成の方法
第2回目	目的①：教員および友人とのコミュニケーションを図る	グループ別	ローテーション式 (学生グループと教員グループの組み合わせが毎週替わる方法)	各グループにより内容は異なる <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 自分のお気に入りの物についてプレゼンテーションする 大学生生活についてのディスカッション レクリエーション などを実施した
第3回目				
第4回目				
第5回目				
第6回目				
第7回目				
第8回目				
第9回目	目的①：教員および友人とのコミュニケーションを図る 目的②：大学生生活・大学教育のあり方を理解し，基本的な学習態度を身につける	全員対象		次回からの導入教育についてのオリエンテーション
		グループ別	固定式 (学生グループと教員グループを固定して行う方法)	テーマの検討
第10回目		グループ別	固定式 (学生グループと教員グループを固定して行う方法)	各グループにより内容は異なる テーマについてグループワーク，プレゼンテーション，ディスカッションを実施した <各グループのテーマ> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師・専門看護師の役割を考える 救急看護を考える 住民の健康を考える 看護理論家の書物から看護を考える 格言集の言葉を基に考える 応急処置方法について調べる 自分達が住む地域の特性を調べる
第11回目				
第12回目				
第13回目				
第14回目				

2. 研究方法

1) 対象

本研究対象は、平成23年4月にA大学看護学部に入学者1年生全員(71名)とした。

2) 調査方法

約10分間で回答可能な自己記入式による質問紙調査とした。

3) 調査内容

質問紙は日常生活スキル尺度(大学生版)と自由記載式の感想用紙を使用した。日常生活スキル尺度(大学生版)を使用した調査は、固定式の開始前(第9回目)と固定式の終了後(第14回目)に実施した。自由記載式の感想調査は、固定式の終了後に実施した。

(1) 日常生活スキル尺度(大学生版)

日常生活スキル尺度(大学生版)(島本ら, 2006)は、「効果的に日常生活を過ごすために必要な学習された行動や内面的な心の動きであるライフスキルを測定する尺度」である(各因子の信頼性係数は $\alpha = .63 \sim .87$)(堀, 2011)。日常生活スキル尺度(大学生版)は、「親和性」「リーダーシップ」「計画性」「感受性」「情報要約力」「自尊心」「前向きな思考」「対人マナー」の8因子24項目より構成されており、各項目は1~4の4段階で評定を求める(付録1)。スキル獲得が高いほど値が高いと評価する。また、8下位尺度は主に個人場面で展開される個人的スキル(計画性、情報要約力、自尊心、前向きな思考)と、主に対人場面で展開される対人スキル(親和性、リーダーシップ、感受性、対人マナー)の2つに分かれ、各々4因子12項目の合計点で表す(最低得点12点~最高得点48点)。

本質問紙は、導入教育の終了後に学生が習得していることを期待した多数の日常生活スキルを測定することが可能であることから、導入教育の効果を検討するのに適していると考え使用した。

(2) 自由記載式感想

自由記載式の感想用紙には、第10回目~第14回目の導入教育で特に良かったこと、困ったこと、改善してほしいことなどを自由に記載できるようにした。

4) 回収方法

質問紙調査を実施する場所に回収箱を設置し、調査後に他の学生および教員の目に質問紙が触れないよう密閉した箱に学生が投函できるようにした。

5) 分析方法

(1) 日常生活スキル尺度(大学生版)の評価

日常生活スキル尺度(大学生版)の評価は、各因子を構成する項目の合計得点の平均値と標準偏差をそれぞれ算出し、導入教育の開始前と終了後の得点をStudent's t-testにより有意差($P < .05$)を求め分析した。また、同尺度の8因子間を分散分析および多重比較を用いて統計学的に評価した($P < .05$)。統計ソフトはSPSS 16.0J for Windowsを使用した。

(2) 自由記載式感想

共通の内容ごとに分類し研究者間で検討した。上記の(1)、(2)より導入教育プログラムの総合評価を行い研究者間でプログラムを検討した。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮は、調査前に本研究は成績とは一切関係ないこと、研究への参加を拒否しても不利益を被ることは一切ないことを学生に説明し、研究への参加は自由意思によって決定してよいことも伝えた。また、この調査への参加を同意した場合でも、いつでも途中でやめることができ、調査への参加を取り止めることで不利益を被ることは一切ないこと、プライバシーや個人情報保護について固く守ることを約束した。質問紙は全員回収することとし、質問紙への記入をもって研究への同意とみなした。

尚、本研究は、A大学所属の倫理委員会の承認を得て実施した。

III. 結果

質問紙の配布数は、固定式の開始前では2名欠席のため69部、固定式の終了後は71部であり回収率100.0%であった。性別は男性15名(21.1%)、女性56名(78.9%)であった。

1) 日常生活スキル尺度(大学生版)各因子の平均点と8因子間の比較

日常生活スキル尺度（大学生版）の8因子それぞれの平均値と標準偏差は、固定式の開始前は、「対人マナー」10.1±1.8、「感受性」9.6±1.6、「親和性」9.1±1.8、「前向きな思考」7.8±1.9、「情報要約力」7.4±1.7、「自尊心」7.3±2.2、「計画性」7.3±1.9、「リーダーシップ」6.7±2.0であった。次に、それらを個人的スキルと対人スキルに分けてみると、個人的スキル29.8±5.7、対人スキル35.3±4.5であり、対人スキルの方が有意に得点が高かった。

また、8因子間の比較を分散分析及びDunnett T3の検定を用いた結果、固定式の開始前は「親和性」「感受性」「対人マナー」に比べ「リーダーシップ」「計画性」「自尊心」「情報要約力」「前向きな思考」は有意に低値であった（ $P < .05$ ）。

固定式の終了後は、「対人マナー」9.9±1.6、「感受性」9.3±1.6、「親和性」9.3±1.7、「前向きな思考」7.9±1.8、「情報要約力」7.5±1.7、「計画性」7.5±1.7、「自尊心」7.1±2.1、「リーダーシップ」6.7±2.1、であり、個人的スキル29.8±5.4、対人スキル35.0±5.2であった。固定式の終了後における8因子間の比較では、固定式の開始前と同様の結果であった。

2) 日常生活スキル尺度（大学生版）における導入教育の開始前と終了後の比較

固定式の開始前と終了後の比較ではStudent's t testの結果、8因子全てにおいて有意な差を認めなかったが、「親和性」「計画性」「情報要約力」「前向きな思考」でわずかであるが上昇傾向を認めた（図1）。

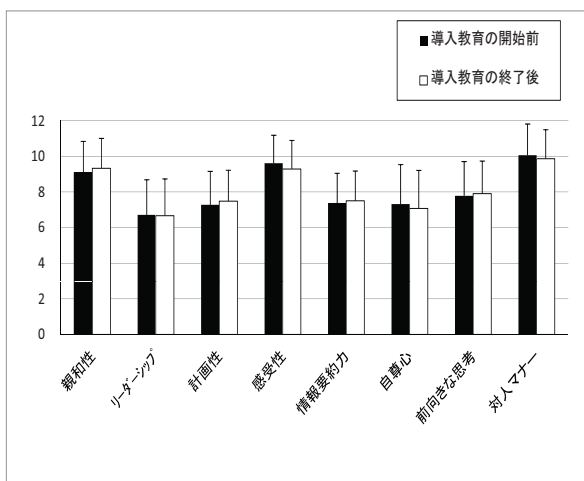


図1. 導入教育の開始前と終了後における日常生活スキル尺度(大学生版)の比較 (mean±SD)

3) 自由記載式感想の結果

全ての感想記述の結果から、共通内容ごとに分類し研究者間で検討した結果、『コミュニケーションの成立度』『学習スキル向上』『カリキュラム上の課題』の3つの大きな項目にわけられた（表2）。

『コミュニケーションの成立度』には、「先生とコミュニケーションを図るのにとても役立った」「話したことのない人たちと話せてよかった」「学生同士、教員の方とコミュニケーションが図れてみんなと距離が縮まったのでよかった」という感想がみられた。一方、「同じメンバーばかりだったため、他のグループとの関わりがほとんどないのが残念だった」という記載もあった。『学習スキル向上』では、「レポートの書き方がわかってとてもよかった」「プレゼンの仕方を学ぶことができた」「自分たちで調べることによって知識が増えてよかった」などの感想があった。『カリキュラム上の課題』では、「テスト前は他の勉強がしたかった」「単位がほしい」などの要望があった。また、回答の中には「特になし」という記載もあった。

IV. 考 察

1. 導入教育の目的①コミュニケーションについて

本研究における導入教育では、グループメンバーとのディスカッションや少人数制指導を通じて、日常生活スキルの中でも特に対人スキルが向上するのではないかと推測していた。しかし、本研究では固定式の開始前と終了後の日常生活スキルを比較したところ、全ての因子で有意差が認められなかった。これは、学習に関する導入教育の実施回数が5回と少ないため、学生は日常生活スキルの重要性は理解できるが、スキル習得は困難であったと考える。

導入教育の効果として、導入教育は学習に対するモチベーションの向上に有益であることや、学生間あるいは教員と学生との間での交流が活発化する（山田ら、2002）点などが挙げられている。本研究における学生の感想からも、「グループの人とコミュニケーションを図れたのがよかった」「先生とコミュニケーションを図るのにとても役立った」というコミュニケーションの充実についての感想があり、今後対人スキルの「親和性」を

表 2. 自由記載式の感想内容

	感 想 内 容	延べ人数
コミュニケーションの成立度	グループの人とコミュニケーションを図れたのがよかった	6
	先生とコミュニケーションを図るのにも役立った	5
	同じメンバーばかりだったため、他のグループとの関わりがほとんどないのが残念だった	3
	グループワークをしたのはよかった	2
	みんなと話す機会ができてよかった	2
	話したことの無い人たちと話せてよかった	2
	普段あまり話さない人の考え方を知ることができてよかった	2
	学生同士、教員の方とコミュニケーションが図れてみんなと距離が縮まったのでよかった	1
	先生方に相談できる機会だった	1
学習スキルの向上	プレゼンの仕方を学ぶことができた	3
	グループワークの大切さが分かった	2
	レポートの書き方が分かってとてもよかった	2
	みんなの意見からグループで1つの結論にまとめることが出来たのは大きな力になった	1
	毎回プレゼンやいろんなことをして勉強になったし楽しかった	1
	自分が何をしたいのかという意見がしっかり持てるようになった	1
	これから役に立つ課題でよかったと思っている	1
	みんな協力してできて勉強になった	1
	協力してくれない人がいた	1
	他人からの意見を取り入れることで自分の知識に幅が出来た	1
	パソコンが全くできなかったのにできるようになりよかった	1
	自分たちで調べることによって知識が増えてよかった	1
	テーマが難しかったので大変だったが終わったら達成感があった	1
	レポートのやり方が学べて良かったが、うまく出来なかったので頑張りたい	1
もっとプレゼンして学びたかった	1	
カリキュラム上の課題	テスト前の課題は大変だった	8
	自己紹介ばかりだったので前回と同じ内容しか話せなくてあまり良くなかった	3
	テスト前は他の勉強がしたかった	2
	単位がほしい	2
	休む人が多かったのもっと出席について厳しくしてほしいと思う	2
	試験前にプレゼンしなければならなかったことが大変だった	1
	グループによって実施していることが違うので楽しいという班と楽しくない班が分かれて嫌だった	1

高めていくきっかけになったのではないかと考える。また、見館ら（2008）は学生は教員とのコミュニケーションが多くなると学習意欲が高くなると報告しており、教員および学生同士のコミュニケーションを中心とした導入教育プログラムが学生の学習意欲に及ぼす影響についても詳細に調査していきたい。

2. 導入教育の目的②学習スキルについて

各グループで決めたテーマについて、情報収集を行い各自の意見をまとめた後、プレゼンテーションを実施しディスカッションを行った。学生からは、「自分たちで調べることによって知識が増えてよかった」「プレゼンの仕方を学ぶことができた」「レポートのやり方が学べて良かったが、う

まく出来なかったので頑張りたい」「もっとプレゼンして学びたかった」という学習への積極的な姿勢についても記載があった。これらのことから今回のプログラムは学習スキル向上に繋がったのではないかと考える。

また、柳井ら（2007）は看護学生は学年が上がるにつれ「判断力」「探究心」「自己表現力」「持続力」などの資質が向上すると報告している。本研究結果では、わずかであるが「親和性」「計画性」「情報要約力」「前向きな思考」で上昇傾向を認めた。そのため、今後も継続して長期的な学習指導を行うことで、特に学生の個人的スキルレベル向上に繋がることを目標としたい。

3. 本研究における導入教育の課題

日常生活スキルの「リーダーシップ」は全因子の中でも低値であり、固定式による改善を認めなかった。そのため、今後は看護職者に必要なリーダーシップ能力の向上が期待できるプログラムを取り入れていく必要があると考える。例えば、ディベートなどの参加型学習やプロジェクトアドベンチャー（グループで掲げた目標を達成するためにグループメンバーが互いに協力して課題に取り組むプログラム）（清水ら，2010）などを導入教育プログラムに取り入れる。それにより、学生同士がディスカッションし課題達成のために互いに協力し合う場を作ることができるのではないかと考える。このようなグループでの学習や活動の機会を多く持つことで、学生はグループ内での課題を円滑に達成していくためにはリーダーの存在が必要であり、リーダーシップの重要性を認識できると考える。また、授業内のグループワークや臨地実習においてもグループリーダーを決め、学生が交互にリーダーの役割を経験できる形態を取り入れた教育を実施していくよう各教員へ提案していきたい。リーダーシップ能力は1年次の導入教育のみで十分に習得することは困難であり、2年次、3年次と授業や臨地実習の中で習得できるような教育や指導が重要であると考えられる。

日常生活スキル尺度（大学生版）は、「親和性」「感受性」「対人マナー」は他の因子に比べ高得点であった。これらの因子はこれまでの教育の中で培ってきたものと思われるが、「リーダーシップ」「計画性」「情報要約力」などは受動的な学習方法で習得することは困難であると考えられる。諏訪

（2011）もリーダーシップについて、講演や講義などの座学だけで身につくものではなく、体験を通して自らが主体的に学ぶことで習得できると述べている。これらの能力を身につけるためには、学生自らが積極的にトレーニングをしたり、複数の課題を同時に課すことで計画の必要性を認識づけること、学生が必要な情報を収集して自己の意見をまとめる形式のレポートを意識して課すことなどにより常にスキル向上を目指した教育を行っていく必要がある。

看護系大学における導入教育の限界としては、必修科目の多いカリキュラムの中で導入教育を行う時間的余裕がない（石井ら，2011）ことである。このような状況の中で本研究でも、学生からは「テスト前の課題が大変だった」「テスト前は他の勉強がしたかった」と学生にとって導入教育が負担となっていた現状もあった。また、学生自身が導入教育の必要性を十分理解できていなかった可能性も考えられる。そのため、カリキュラム上の課題に対して、今後は実施時期を検討すると同時に学生が導入教育を実施する目的や重要性を理解し、積極的に取り組んでいけるよう事前のオリエンテーションで丁寧に説明していきたい。

看護学部における導入教育は、大学生のスタディ・スキルズ習得のみではなく、看護職者を目指す上で必要な基礎力を身につけるためにも重要な取り組みであると考えられる。看護職者は、患者やその家族に対してよりよい看護を提供していくために、他職種と連携を図るコミュニケーション能力や、医療チームの中でまとめ役や調整役を担うリーダーシップ能力も必要である。このような能力を4年間を通して向上させていくことができるような教育や指導を実施していきたいと考える。

V. 本研究の限界と課題

本研究は導入教育の開始から終了までの期間が短く、その評価は導入教育の実施直後に限定していることから、長期的に現れる教育効果を明らかにすることはできなかった。今後は1年次に導入教育を実施した後、2年次以降も授業や臨地実習において日常生活スキル習得を目指した教育や指導を行うことにより、学生がどのように成長していくのか、長期的な評価も実施していく必要があると考える。

また、本研究では日常生活スキル尺度（大学生版）と自由記載式の感想用紙を使用し導入教育の効果を測定した。2種類の評価票を使用した理由は、日常生活スキル習得以外の側面からも導入教育の効果を調査したいと考えたからである。しかし、これらの質問紙のみでは学習スキルや社会的スキルの習得状況までを十分に明らかにすることはできなかった。今後は、導入教育の効果を多方面から測定するために、評価票の追加および評価方法の検討が必要である。

VI. 結 語

学習に関する5回の導入教育の開始前と終了後では、日常生活スキル（大学生版）における全ての因子で有意差を認めなかった。しかし、学生の感想にはコミュニケーションの充実や学習への積極的な姿勢についての記載がみられた。また、8因子の中では特に対人スキルの「リーダーシップ」の得点が低い傾向にあることが明らかとなり、今後の導入教育に加え、授業や臨地実習の中でリーダーシップ能力の向上を目指した教育や指導が必要とされた。

謝 辞

本研究にご協力くださいました対象者の皆様、A大学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

文 献

- 石井敏弘, 鈴木恵理子, 鈴木知代, 他 (2011): 学生による看護学部導入教育の評価, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 14, 51-62
- 相良かおる, 音成陽子 (2004): 看護・福祉系学部の1年次を対象とした導入教育を盛り込んだ一般情報処理教育の実践, 日本教育工学会論文誌, 28 (2), 99-107
- 島本好平, 石井源信 (2006): 大学生における日常生活スキル尺度の開発, 教育心理学研究, 54, 211-221
- 清水安夫, 尼崎光洋, 煙山千尋, 他 (2010): 大学体育における野外教育活動の可能性の検討-プロジェクトアドベンチャー・プログラムを導入したキャンプ活動におけるリーダーシップ及びフォロワーシ
- ブの養成-, 大学体育学, 7, 25-39
- 諏訪茂樹 (2011): 看護にいかすリーダーシップ-ティーチングとコーチング, 場面对応の体験学習, 64-74, 医学書院, 東京
- 玉利光太郎 (2011): 問題解決型学習による大学生の学習意欲の変化-ストレス対処能力, コントロール所在, および自己没入感は学習意欲の変化を予測する-, 吉備国際大学研究紀要 (保健学部), 21, 1-9
- 見館好隆, 永井正洋, 北澤武, 他 (2008): 大学生の学習意欲, 大学生生活の満足度を規定する要因について, 日本教育工学会論文誌, 32 (2), 189-196
- 柳井晴夫, 石井秀宗 (2007): 看護系大学において必要とされる教科科目・資質能力・スキルに関する調査研究, 聖路加看護学会誌, 11 (1), 1-9
- 山田礼子, 沖清豪, 森利枝, 他 (2002): 私立大学における一年次教育の実際-『学部長調査』(平成13年)の結果から-, 日本教育社会学会大会発表要旨集録, 54, 206-211
- 山田礼子 (2001): 大学生の学習力; 日本の現実とアメリカの経験, 大学教育学会誌, 23 (2), 36-41
- 堀洋道監修 (2011): 心理測定尺度集VI 現実社会とかわるく集団・組織・適応>, 183-189, サイエンス社, 東京

付録1. 日常生活スキル尺度(大学生版)

<教示>(例)

以下の各々の項目について、現在の自分に最も当てはまる数字1つに○を付けて下さい。

<選択肢>

1. ぜんぜん当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. わりと当てはまる
4. とても当てはまる

当 ぜ ん ぜ ん 当 て は ま ら な い	当 あ ま り 当 て は ま ら な い	わ り と 当 て は ま る	と と も 当 て は ま る
--	---	--------------------------------------	--------------------------------------

<項目>

【親和性(対人スキル)】

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ・困ったときに、友人らに気軽に相談することができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・新身になって友人らに相談に乗ってもらえることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・どんな内容のことで友人らと本音で話し合うことができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

【リーダーシップ(対人スキル)】

- | | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|
| ・話し合いのときにみんなの意見を1つにまとめることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・集団で行動するときに先頭に立ってみんなを引っ張っていくことができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・自分が行動を起こすことによって、周りの人を動かすことができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

【計画性(個人的スキル)】

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ・先を見通して計画を立てることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・課題が出ると、提出期限を自ら決める等の工夫をしてやる気を引き出す | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・やるべきことをテキパキと片付けることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

【感受性(対人スキル)】

- | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|---|
| ・困っている人を見ると援助をしてあげたくなる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・他人の幸せを自分のことのように感じることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・悲しくて泣いている人を見ると、自分も悲しい気持ちになる | 1 | 2 | 3 | 4 |

【情報要約力(個人的スキル)】

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ・手に入れた情報を使って、より価値の高いもの(資料等)を生み出せる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・数多くの情報の中から、本当に自分に必要な情報を手に入れられる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・多くの情報をもとに自分の考えをまとめることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

【自尊心(個人的スキル)】

- | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|
| ・自分のことが好きである | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・自分の今までの人生に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・自分の言動に対して自信を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 |

【前向きな思考(個人的スキル)】

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ・嫌なことがあっても、いつまでもくよくよと考えない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・困ったときでも「なんとかなるだろう」と楽観的に考えることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・何かに失敗したときにすぐ自分はダメな人間だと思ってしまう(●) | 1 | 2 | 3 | 4 |

【対人マナー(対人スキル)】

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ・目上の人の前では礼儀正しく振る舞うことができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・年上の人に対しては敬語を使うことができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・初対面の人に対しては言葉遣い等に気を配ることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

(●は逆転項目。)

※島本好平, 石井源信(2006): 大学生における日常生活スキル尺度の開発, 教育心理学研究54, 211-221より引用(本質問紙の使用及び掲載については作成者に許可を得た)

